



マグニチュードと震度

マグニチュード

マグニチュードとは、地震のエネルギーを表す単位です。一般にマグニチュードにより、次のように表現しています。

マグニチュードM8程度以上:巨大地震
マグニチュードM7以上:大地震
マグニチュードM5以上M7未満:中地震
マグニチュードM3以上M5未満:小地震

震度

震度とは、地震の際の各地点の揺れの強さを表します。

一般的に、マグニチュードが大きくても震源が遠い場合や深い場合は、震度が小さく、マグニチュードが小さくても震源が近い場合や浅い場合は、震度が大きくなります。

地震の揺れと被害想定

◆震度の違いでどのようになるの? (震度の揺れと被害想定)

※この階級による震度(気象庁震度階級)の発表は、平成21年3月31日より実施

0		人は揺れを感じないが、地震計には記録される。
1		屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。
2		屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。眠っている人の中には、目を覚ます人もいる。
3		屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には、揺れを感じる人もいる。眠っている人の大半が、目を覚ます。
4		ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。
5		大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
5		大半の人が、物につかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。
6		立っていることが困難になる。
6		立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろつされ、動くこともできず、飛ばされることもある。
7		

地盤、斜面等の状況

震度階級	地盤の状況	斜面等の状況
5弱	亀裂や液状化が生じることがあります。	がけ崩れや地すべりが発生することがあります。
5強		
6弱	落石やがけ崩れが発生することがあります。	大きな地割れが生じることがあります。
6強	地割れを生じることがあります。	がけ崩れが多発し、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがあります。
7		

地震発生時の行動パターン

大きな地震が発生した時、一瞬の判断が生死を分けることがあります。冷静に行動するために、行動パターンを覚えておきましょう。

地震発生時の行動パターン

地震発生

- 火元を確認し、出火していたら初期消火
- 家族の安全を確認
- 靴をはく
- ガラスの破片等から足を守るため
- 非常時持出品を手近に用意



1~2分

- 落ち着いて、自分の身を守る机の下に隠れるなど、まずは身を守る
- すばやく火の始末
- 揺れが激しいときは、無理せず、大きな揺れがおさまってから火の始末
- ドアや窓を開けて逃げ道を確保



3分

- ラジオ等で正しい情報を確認
- 家屋倒壊等のおそれがあれば避難する



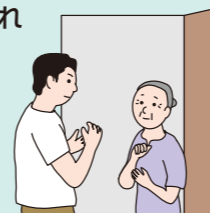
5分

- となり近所の安否確認
- 特に一人暮らしの高齢者や、要配慮者がいる家には積極的に声をかける
- 余震に注意
- 大きい揺れがおさまった後に、小さな揺れが起こることが多いので要注意



5~10分

- 消火・救出活動
- 近隣住人と協力して消火や救出活動をする
- ラジオ等で最新の情報を確認
- 引き続き家屋倒壊等のおそれがあれば避難する



10分~数時間

- 子供を迎えに行く
- 自宅を離れるときは、行き先を書いたメモを目立つ場所に残す
- さらに出火防止を
- ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを切る



~3日ぐらい

- 自主防災組織を中心に行動する
- 集団生活のルールを守る
- 助け合いの心を忘れずに

避難生活では

- 家屋倒壊等のおそれがある場合は避難所で生活を
- 壊れた家には入らない
- 生活必需品は個々の備蓄でまかなう
- 災害情報・被害情報の収集
- 引き続き余震に注意

